



瀬戸谷小中一貫学校教育目標  
『 自立 共生 成長実感 』

小中一貫教育でめざす子ども像

小学校との  
協働

子ども園との  
協働

- (1) 自分のよさや可能性に気づき、夢の実現に向けて意欲を持ち、粘り強く努力する子ども
- (2) 9年間で、知・徳・体をバランスよくはぐくみ、自分の成長を実感して自ら可能性を広げていく子ども
- (3) 仲間や地域の人たちと積極的にかかわり、自他のよさを認め合い、自分も相手も大切に  
する子ども
- (4) 瀬戸谷の人・自然・文化・産業等について深く理解し、郷土を大切にする子ども

地域との  
協働

家庭との  
協働

瀬戸谷らしい「小中一貫教育」の構築

「子どもたちの学びと育ちが9年間で積み上がっていく」教育の創造

～瀬戸谷の子どもたちに力をつけることができる「施設一体型小中一貫校」をめざした実践的な研究～

「小5、6アップ」「中学生サポート」を中心とした多様な学びを小中学校の教職員で実践し、その成果と課題を検証する実践を行う。組織的な研究、実践ができる学校づくりを進める。

重点目標

新たな発見・追求



瀬戸谷ピア・サポート  
キャラクター  
「瀬ピア」

学びを実感する  
授業の推進

生徒たちの基礎的な学力をさらに高めるとともに、学ぶ意欲を引き出し、新たな自分を発見し深い学びを追求していく授業を推進する。

- 授業の内容を理解 70%→82%
- 失敗を恐れずに挑戦 73%→78%
- (1) 生徒が自分の成長を実感できる授業の推進「わかった・できた・感動」  
「確かな学力の保障」「振り返る」
- (2) 生徒指導が機能する授業の推進  
「心を育てる」「可能性を広げる」  
「共生の学びの保障」
- (3) 学習習慣の確立、基礎学力の定着  
「授業、家庭学習、読書活動の継続と充実」

教科指導

個の力を  
強める  
自己肯定感  
を育てる

- ・高める
- ・強める

○私には良いところがある  
90%→93%

すべての教育活動の中で、生徒の良さと力を引き出す、伸ばす。

自主・自立を育む  
集団活動の推進

生徒が集団での活動を通して、その目標達成の成就感を味わうことができるようにするとともに、新たな自分を発見し可能性を広げ深める集団活動を推進する。

- 人が困っている時進んで助ける 93%→95%
- ピア・サポート活動を意識した生活 93%→95%
- (1) 生徒が自分の成長を実感できる集団活動の推進「できた・やり遂げた・感動」
- (2) 仲間と意思を一つにして目標に向かって取り組むことを繰り返し体験
- (3) 異学年集団での活動の充実（小中合同体育祭「せとやっこ体育祭」、「せとやっこ総合」、「歌おう活動」「学習」など）
- (4) 継続的な地域との連携、校区外との交流によるキャリア教育充実

教科外指導

縦と横の連携を深め「チーム瀬戸谷」で指導・支援

学年(縦)・分掌(横)の連携を強め、重層的な指導・支援体制を整えることによって、生徒が新たな自分を発見・追求できる環境づくりを進める。

- 学校生活が楽しい 85%→95%
- 先生や生徒は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる 96%→100%
- (1) 学び続ける・磨き続ける教職員集団の構築
- (2) 学年部や学習部、特活部、サポート部等の各組織が生徒の力を引き出し、伸ばす機能をさらに高めるとともに、組織間の連携をより強める。(支援員、指導員、SC、SSW、外部機関との連携)
- (3) 生徒のあられ等を教職員間で、スピード感を持った情報共有に心がけ、効果的な生徒への指導・支援ができる体制をつくり、活かすようにする。
- (4) 生徒たちの活動を認める場、価値づける機会を意図的に設定する。(授業・朝帰りの会・集会・掲示・たより など)
- (5) C・Sの充実により、地域の教育力をさらに活かし、「地域とともにあるチーム瀬戸谷」をさらに高める。  
\*校務の整理(令和4年度の一年をかけて校務の総点検を行い、整理・集約・削減等を進める)  
\*教職員の意識改革(「今週の私の定時退庁日」の設定、見通しをもち効率的に校務にあたる意識を高める)

学校運営